

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/23

不安定な地合いのなかで

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	手掛かり材料少なく主体性のない動きに 予想レンジ: 84.30 ~ 88.10 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	➡	20日線突破で66円台が目標値として点灯 予想レンジ: 63.30 ~ 66.70 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	➡	年内の利上げ観測後退で株・商品にらみ 予想レンジ: 11.60 ~ 12.00 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 5/16~20の主な推移



5/16 Monday	時間外の原油先物価格やNYダウ平均先物の下落を受け、リスク回避の動きから豪ドル/円は一時84.92円まで下落(①)。ただその後、安く始まったNYダウ平均が反発上昇し、原油価格も上昇に転じたことを背景に、豪ドル/円は86.08円まで上昇した。
5/17 Tuesday	今月3日に行われた豪準備銀行(RBA)理事会の議事録が公表された。内容は理事会後に出された声明にほぼ沿った内容となり、市場ではRBAの早期利上げ観測が後退し豪ドル/円は小幅安となった(②)。ただその後、東芝や武田薬品工業からの相次ぐ海外企業の買収観測を手掛かりに、市場では円売り・ユーロ買いのフローが出るとの思惑から、ユーロ/円が上昇。豪ドル/円はこの円売りに連れて値を上げた(③)。
5/18 Wednesday	日本時間19日3時に公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録は、現在の米金融緩和策の出口戦略を意識させる内容となった。これを受け米国債利回りが上昇し、ドル/円が値を上げると、併せて豪ドル/円は上昇した(④)。
5/19 Thursday	米新規失業保険申請件数が予想以上に雇用回復を示す結果となり、ドル/円が上昇したことや、NYダウ平均が寄り付きから上昇したことが好感され、豪ドル/円は87.54円の高値をつけた。しかしその後発表された米経済指標は、4月中古住宅販売件数を始め予想を下回るものが相次ぐと、これを受けてNYダウ平均が下げに転じ、豪ドル/円は一時86.50円まで下落した(⑤)。

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

今週の見通し

先週公表されたRBA議事録にて、豪州の早期利上げ観測が後退したとはいえ、市場では年後半から来年にかけてRBAが利上げに動くとの見方には影響を与えるには至らず、発表後の市場での豪ドル/円を売り込む動きは限定的であった。

今週の豪州では、市場での豪州の金利見通しや景況感に影響を与える主だった経済指標の発表が予定されておらず、手がかり材料に乏しい展開が予想される。その中において、今週の豪ドル/円は先週に続き主要国の株価や商品相場を眺めながらの展開が予想される。株安や商品安が進む場面では、リスク回避の動きから豪ドル/円には下落圧力が掛かることが予想され、一方で株価や商品価格が上昇する場面では、豪ドル/円は買われやすいと見られる。(川畑)

(予想レンジ: 84.30~88.10 円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●AUD/JPY 5/20週足引値:87.14円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は19日には87.54円まで上昇したが、87.56円(4/28高値89.57円~5/5安値84.30円の値幅5.27円の61.8%戻し)のほか、引値レベルでは20日線での上値の重さが目立つ。週足でも先週の足形は5/2の週に付けた直近の実体部の長い陰線を被せておらず、戻り上値は重いと見られる中、どこまで上値を伸ばせるかがポイントとなりそうだ。

ボリンジャーバンドは5/20現在、上限:89.61円~下限:84.62円と、上下のバンド幅はほぼ一となり、現在の相場に明確な方向感は見られず、レンジ内での推移が見込まれる。

移動平均は20日線(5/20時点では87.12円)が緩やかに下向きだが、ローソク足は同線を挟んでもみ合いが続く。今後、同線が下値となるようであれば、相場は20日線とバンド上限とのレンジへと移る可能性がある。また60日線(同、85.53円)は上向きにつき、下押し局面ではサポートとなる可能性がある。

上値ポイントは①前述の87.56円、②88.09円(5/11高値)、③89.57円(4/28高値)であり、下値ポイントは①85.53円(60日線)、②84.30円(5/5安値)、③83.38円(3/17安値74.25円-4/11高値90.00円の値幅15.75円の1/2下押し)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 5/16~20の主な推移



5/16 Monday	時間外の原油先物価格やNYダウ平均先物の下落を受け、リスク回避の動きからNZドル/円は一時62.65円まで下落した(①)。
5/18 Wednesday	NZ第1四半期生産者物価指数は前期比+1.7%と、前回(同+0.2%)より大幅な上ブレとなり、NZドル/円は一時64.07円まで上昇した(②)。日本時間19日3時に公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録は、現在の米金融緩和策の出口戦略を意識させる内容となった。これを受け米国債利回りが上昇し、ドル/円が値を上げると、併せてNZドル/円は上昇した(③)。
5/19 Thursday	NZの2011年度予算案では、昨年12月時点より財政黒字目標を1年前倒して2014年度までとすることが伝えられた。一部では今年2月にNZで発生した地震の影響により、財政が悪化し格下げとなるリスクが指摘されていた中、この発表を受けてNZドル買いが強まり、NZドル/円は上昇した。またNY市場では米新規失業保険申請件数が予想以上に雇用回復を示す結果となりドル/円が上昇したことや、NYダウ平均が寄り付きから上昇したことが好感され、NZドル/円は64.89円の高値をつけた。しかしその後発表された米経済指標は、4月中古住宅販売件数を始め予想を下回るものが相次ぐと、これを受けてNYダウ平均が下げに転じ、NZドル/円は64.19円まで急落した(④)。
5/20 Friday	前日の予算案を受け、市場では海外投資家がNZ国債の購入を拡大するとの観測が浮上し、NZドル/円は底堅く推移した。加えてNY市場では金や原油価格の上昇も重なり、NZドル/円は65.26円の高値をつけた(⑤)。

上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今週の見通し

先週NZで発表された2011年度の予算案を受け、市場では財政黒字化の1年前倒しなどが好感され、その後NZドル/円は堅調に推移した。今週、NZでは主だった経済指標の発表が予定されていないものの、先週の地合いを引き継ぎ、NZドル/円は底堅い推移が見込まれる。チャート上でもローソク足が20日線を突破し、その後は同線を下値に推移しており、目先は4月6日高値(66.71円)を試す動きが先行する可能性がある。

そのほか、引き続き主要国の株価や商品相場に左右されやすい相場展開が予想される。株安や商品安が進む場面では、リスク回避の動きからNZドル/円には下落圧力が掛かることが予想され、一方で株価や商品価格が上昇する場面では、NZドル/円は買われやすいと見られる。(川畑)

(予想レンジ:63.30~66.70円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

— 20日線 — 60日線 — 200日線
〔ボリンジャーバンド〕
— +2シグマ — -2シグマ



●NZD/JPY 5/20週足引値65.07円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

NZドル/円は一時、65.26円(5/20高値)まで上昇した。加えて20日線を引値レベルでも越えたことで、目先の相場は20日線とバンド上限との往来相場に移行した可能性がある。ただし週足を見ると、4月下旬からの下落に対する戻り上値を試す展開が続いており、今週は66.71円(4/6高値)を前に上値は重いと見られる中、どこまで上値を伸ばせるかがポイントとなりそうだ。

ボリンジャーバンドは5/20現在、上限:66.39円~下限:62.54円と、バンド幅は縮小に向かっており、ローソク足がバンド上下を押し上げられない間、相場はバンド内での推移が見込まれる。

ローソク足は20日線(5/20時点では64.47円)を引値レベルでも上回り、同線が下値支持として機能するか注目したい。仮に割り込む場合、60日線(同、63.23円)や200日線(同、62.61円)に向けた下押しが予想される。

上値ポイントは①65.86円(5/2高値)、②66.71円(4/6高値)、③68.64円(5/20時点での、2009年10月高値69.69円と、2010年5月高値69.34円を結んだ線)であり、下値ポイントは①64.47円(20日線)、②63.23円(60日線)、③62.50円前後(5/5安値62.54円のほか、200日線やバンド下限に近い)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 5/16~20の主な推移



5/16 Monday	金現物相場の下落を背景にランド売りが強まり、ドル/ランドが上昇した。ランド/円はこのランド売りを受け、一時11.44円まで下落した(①)。
5/17 Tuesday	東芝や武田薬品工業からの相次ぐ海外企業の買収観測を手掛かりに、市場では円売り・ユーロ買いのフローが出るとの思惑から、ユーロ/円が上昇。ランド/円はこの円売りに連れて値を上げた(②)。17時に発表された南アフリカ4月消費者物価指数は前年比+4.2%と、予想(同+4.4)を下回ったが発表直後の反応は限定的であった。しかし20時に発表された南ア3月実質小売売上高は前年比+5.1%と予想(同+5.7%)を下回り、ランドは売られた。加えてNY市場序盤に発表された4月住宅着工件数を始めとした米経済指標は予想を下回るものが相次ぎ、ドル/円の下落も重なると、ランド/円は一時11.55円まで下落した(③)。
5/18 Wednesday	日本時間19日3時に公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録は、現在の米金融緩和策の出口戦略を意識させる内容となった。これを受け米国債利回りが上昇し、ドル/円が値を上げると、併せてランド/円は上昇した(④)。
5/19 Thursday	米新規失業保険申請件数が予想以上に雇用回復を示す結果となりドル/円が上昇した事や、NYダウ平均が寄り付きから上昇した事が好感され、ランド/円は11.91円まで上昇した。しかしその後発表された米経済指標は、4月中古住宅販売件数を始め予想を下回るものが相次ぐと、これを受けてNYダウ平均が下げに転じ、ランド/円はその後11.79円まで下落した(⑤)。

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今週の見通し

先週発表された南アフリカの4月消費者物価指数や3月小売売上高指数は、いずれも予想を下回った。とはいえインフレ率は前月と比べわずかに増加し、小売売上高も前月に続き5%台を維持している。今回の結果を受け、市場では南アフリカ準備銀行(SARB)の次の一手は利上げとの見方に変わりはないものの、年内の利上げ開始観測は後退した模様である。これにより、市場では当面は南アの政策金利に変更はないとの見方から、南アで発表される経済指標についての市場の反応は予想と大きく異なる結果とならない限り、限定的となる可能性がある。したがって今週のランド/円は主要国の株価や商品市況に左右されやすい展開が予想される。仮に金や原油、株価が上昇する場面ではランド/円に上昇圧力が掛かることが予想されるものの、商品安や株安となる場面ではランド/円は弱含む展開が予想される。(川畑)

(予想レンジ:11.60~12.00円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●ZAR/JPY 5/20週足引値:12.33円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は下落トレンドが続いている。先週は反発局面が続いたが、4/8高値(12.84円)と4/28高値(12.44円)を結ぶ抵抗線(5/20時点では11.98円)に加え、20日線が下向きであることも加え、12円の節目を前に上値が重い。今週、上値の重さが嫌気されるようだと、相場は反落することも考えられる。

ボリンジャーバンドは5/20現在、上限:12.49円~下限:11.43円と、バンド幅は余り広がってはいないものの、上下のバンドはやや下方に拡大。方向感が薄い中、レンジ的推移が見込めるものの、どちらかと言えば上値より下値が意識されやすそうである。

移動平均は20日線(5/20時点では11.96円)や60日線(同、12.00円)のほか、引値レベルでは200日線(同、11.88円)が上値を押さえている。60日線と200日線は平行なため、今後20日線が60日線を上抜ける場面がでないと、上値模索の動きにはつながりにくいと考えられる。

上値ポイントは①11.88円(200日線)~12.00円(60日線)、②12.10円(5/9高値)、③12.44円(4/58高値)であり、下値ポイントは①11.77円(5/19と20の安値)、②11.62円(5/18安値)、③11.43円(5/20安値)である(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/23~26)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/23			トロント休場(ヴィクトリアデー)		
(月)	14:00		(日) 3月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	99.5	——
			(日) 3月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	103.6	——
	14:00		(日) 5月金融経済月報・基本的見解	——	——
5/24			(独) 第1四半期GDP・確報 [前期比]	+1.5%	+1.5%
(火)	15:00		(独) 第1四半期GDP・確報 [前年比]	+4.9%	+4.9%
	15:00		(独) 第1四半期個人消費 [前期比]	+0.2%	+0.5%
	17:00	◎	(独) 5月IFO景況指数	110.4	113.6
	23:00	○	(米) 4月新築住宅販売件数	30.0万件	30.5万件
			(米) 4月新築住宅販売件数 [前月比]	+11.1%	+1.7%
	23:00	○	(米) 5月リッチモンド連銀製造業指数	10	10
	26:00	○	(米) 2年債入札(350億ドル)	——	——
5/25	08:50	○	(日) 4月通関ベース貿易収支	+1894億円	-7450億円
(水)	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (4月28日分)	——	——
	15:00		(独) 6月GFK消費者信頼感調査	5.7	5.6
	17:30	○	(英) 第1四半期GDP・改定値 [前期比]	+0.5%	+0.5%
		○	(英) 第1四半期GDP・改定値 [前年比]	+1.8%	+1.9%
	17:30		(英) 第1四半期個人消費 [前期比]	-0.3%	+2.0%
	21:30	○	(米) 4月耐久財受注 [前月比]	+2.5%	-2.0%
		○	(米) 4月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	+1.3%	+0.6%
	23:00		(米) 3月住宅価格指数 [前月比]	-1.6%	-0.6%
	26:00	○	(米) 5年債入札(350億ドル)	——	——
5/26	10:30		(豪) 第1四半期民間設備投資	+1.3%	——
(木)	18:30		(南ア) 4月生産者物価指数 [前年比]	+7.3%	+7.1%
	21:30	◎	(米) 5/21までの週の新規失業保険申請件数	40.9万件	——
	21:30	○	(米) 第1四半期GDP・改定値 [前期比年率]	+1.8%	+2.2%
	21:30	○	(米) 第1四半期個人消費・改定値 [前期比]	+2.7%	+2.8%
	26:00	○	(米) 7年債入札(290億ドル)	——	——

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/27)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/27	08:01		(英) 5月GFK消費者信頼感調査	-31	-32
(金)		○	(日) 4月全国消費者物価指数 [前年比]	±0.0%	+0.2%
	08:30	○	(日) 4月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	-0.1%	+0.5%
	17:00		(ユーロ圏) 4月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.3%	+2.3%
	18:00		(ユーロ圏) 5月消費者信頼感・確報	---	---
	18:30		(スイス) 5月KOF先行指数	2.29	---
	21:30		(米) 4月PCEデフレーター [前年比]	+1.8%	+1.9%
	21:30		(米) 4月PCEコア・デフレーター [前月比]	+0.1%	+0.2%
			(米) 4月PCEコア・デフレーター [前年比]	+0.9%	+1.0%
	21:30	○	(米) 4月個人支出 [前月比]	+0.6%	+0.4%
	21:30		(米) 4月個人所得 [前月比]	+0.5%	+0.4%
	22:55	○	(米) 5月ミンガン大消費者信頼感指数・確報値	72.4	72.4
	23:00		(米) 4月中古住宅販売成約 [前月比]	+5.1%	-1.0%
	未定	○	(独) 5月消費者物価指数・速報 [前月比]	+0.2%	±0.0%
		○	(独) 5月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.4%	+2.3%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。